

炭酸ガス施用による施設栽培ナス 多収技術の確立

炭酸ガスを施用する施設ナス栽培で 収量を増加させる換気方法

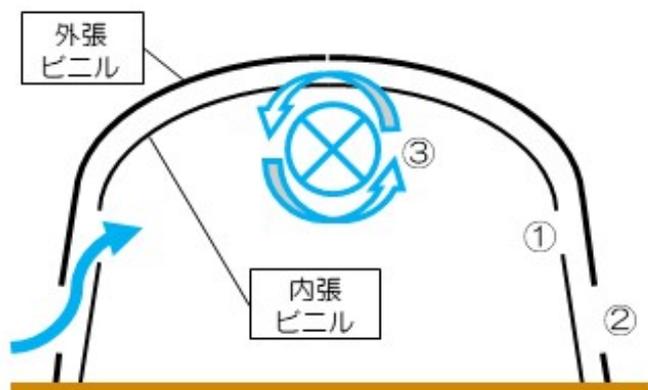


図1 側窓優先換気ハウス

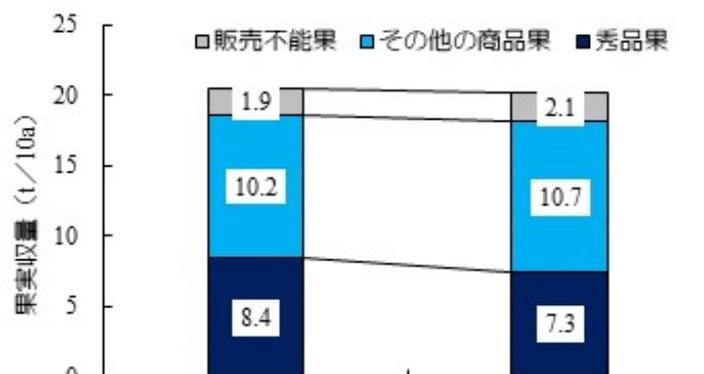


図2 換気方法が収量に及ぼす影響

開発のねらい

施設ナス栽培では、生産費の上昇により、生産者の経営が圧迫されています。そこで、産地に導入が進みつつある炭酸ガス施用施設ナス栽培において、さらに増収が可能な炭酸ガス施用時の換気方法について検討しました。

新技術の概要

- 側窓優先換気ハウスでは、朝、炭酸ガスを800ppmで施用開始した後、以下のように管理します（図1）。
 - ①22℃になったら内張の肩を開ける。
 - ②26～29℃になったら外張の腰を開ける。
→炭酸ガスを400ppmで施用。
 - ③29～32℃になったら換気扇を回す。
→炭酸ガスを停止。
- 側窓優先換気を行うと、換気扇のみで換気した場合より、秀品果収量が増加し、商品果収量（秀品果＋その他商品果収量）も増加します（図2）。

活用場面

本技術は、炭酸ガス施用装置を導入している施設ナス栽培に適用できます。単価の高い秀品果収量が増加するため、所得の向上も期待できます。

お問い合わせ先

岡山県農林水産総合センター
赤磐市神田沖1174-1

農業研究所

TEL. 086-955-0271